

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ		
所在地	〒851-2324 長崎県長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果確定日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=4271101323-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=4271101323-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年10月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オゾンに包まれた山頂より海が望める自然環境が自慢です。庭先には花畑や野菜畑があり、芋掘りをしたり草花を鑑賞したりして入居者の楽しみの一つになっております。またホーム内では、シーズ犬(名前はサンボ)やメダカを飼っていて入居者の癒やしになっています。そういう環境の中で入居者の方に安心して生活して頂いております。暖かい日には外で外気浴を兼ねてレクリエーションを行ったり、老健施設や隣の式番館等をサンボして楽しんでおられます。鬼火焼きや夕涼み会、花見等の屋外での行事も入居者の楽しみとなっております。またホームでのお誕生日会や年二回のご家族ふれあい会を開催して皆で楽しむアットホームな雰囲気も作っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の共有と実践について、ホームでは法人理念を部署方針に落とし込み、年度毎に到達目標を作成している。職員が理念に沿った入居者支援ができるように工夫がなされていた。また、理念の中核でもある「地域貢献」について、住民や消防団、近隣の他法人を含むグループホームと連携が図れている。地域住民や消防団とは災害時等に協力体制を整えていたり、近隣のグループホームとは、お互いに運営推進会議に参加し合う等、地域と顔の見える関係構築に努めている。その他、入居者家族への状況報告について、家族宛にホームでの日常生活状況及び経過報告、入居者の顔入り写真、翌月の予定等詳細に記入した書類を、毎月郵送している。家族は離れていても入居者の状況を把握することができ、安心感を得ることができるとともに、信頼関係を構築できる体制が整っている。最後に、教育体系について、職員一人一人に研修会出席簿を作成して、職員がどの研修に参加しているか一目でわかるような仕組みを作っていた。法人として教育体系を重視して、職員の向上心を高める工夫をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、ホームの方針として「入居者と職員のふれあいの時間を作る」をH28年度より到達目標として入居者の方が満足して頂けるよう実践に努めている。	複数ある法人理念のうち、特に「地域福祉に貢献」をベースとしている。更に一步踏み込んだホームの方針として、入居者と触れ合う時間を大切にしている。また年度毎に到達目標を設定して、更に理念浸透を見える化して、達成の程度や課題抽出に、工夫がなされている。その他、朝礼の進め方という冊子に、理念の項目も盛り込まれており、毎朝出勤した職員で唱和して、理念の共有に対して意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H21年4月自治会に加入し地域行事に参加しているが、特定の入居者の方しか参加できない状況である。黒崎地区学童クラブ「タやけキッズ」や上黒崎子供会の慰問などで入居者との交流があった。	入居者の心身の状況により、地域行事に参加できる入居者は、限られている現状であった。逆に地域との関わりとして、地域の夏祭りに職員が協力したり、地域の学童クラブ等からの慰問を受け、老若男女問わず可能な範囲で、関わりを持続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議でのグループワークでグループホームの立場で意見を述べたり、認知症の人の生活状況を説明して何かの参考にならないかアピールした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母に日会や父の日会の代わりにグループホームど独自のご家族様ふれあい会6月に開催し、好評だったので12月にも開催して喜ばれた。運営推進会議の議事録を全家族に郵送あるいは手渡して運営推進会議というものを理解してもらっている。	定期的を開催する運営推進会議の場で、入居者家族や地域や行政等との情報交換は、継続的に実施できている。この会議で近況の意見交換は、それぞれの立場からできている。この会議で特徴的な取組みとして、他法人のグループホーム職員が、会議に参加している。お互い取り組みを共有して、サービスの質の向上に努めたり、緊急時に連携を散りやすい関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎市すこやか支援課や琴海行政センター及び包括支援センターの担当者には月一回「レーブだより」や運営推進会議の案内や議事録を郵送している。又、包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議に参加している。	行政との関わりは主に運営推進会議の場で、情報交換や最近の動向等確認している。この会議に参加する行政の職員は、ほぼ固定化されており、顔の見える関係を構築できている。行政からは公的な情報の他、近隣のグループホーム等が取り組んでいる、効果的なケアを情報提供していて、お互いに役割を認識した、良い関係を築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、常に玄関はオープンになっており自由に出入りしている。出て行こうとしている人に対しては、玄関ドアにつけている鈴や他の入居者の方に呼んで頂き、職員が対応している。又、エスポアールの職員にも協力してもらって電話連絡で対応している。	身体拘束しないケアに係る教育体系として、まず入職した際に、業務マニュアルに沿って職員に実施している。入職後も法人全体の研修で、必ず触れる機会を持ち、経験年数等問わず、誰もが参加できる環境を整備している。また、最近では職員が、入居者に対して馴れ合いになりすぎないように、特に不適切な言葉や関わり方を注意するようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループの研修会や外部研修で高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での虐待がないよう職員同士注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎市すこやか支援課主催の研修会や法人内の研修会に参加して成年後見制度を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化や異常行動の時は緊急に家族へ連絡し、十分に説明し家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは要望を職員が聞いたり、家族からは面会や電話で相談にのったりしている。又、ご意見場所を設置し、職員に対する不満は法人内老健施設の支援相談員が受け付けている。	家族とのやり取りの中で、一番重視していることは、小さなことでも「報告」「連絡」「相談」することであった。まずは、家族と信頼関係を構築することに重点を置いている。この考え方に加えて、年に2回実施している「ふれあい会」に家族も参加して、職員と顔を合わせたり、意見交換する機会を作っている。今後、会に参加しない家族へのアプローチ等、課題は残るが、現段階において、家族が外部に意見を伝える機会を、一定程度担保されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のレーブ会議や日々の申し送りで職員の意見を集約し、月二回の主任会議で報告している。	法人の風土や上位者の心がけで、風通しはよく、職員のヒアリングの中でも、困ったことや悩みがあったら、自然に上司に相談できることであった。管理者は可能な限り、職員が働きやすい環境を整備しようと、普段から心がけて声かけを意識する等、職員に向き合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で日勤者は年一回・夜勤者は年二回の健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、業務に差し支えないように法人内外の研修を勧め、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学は行っているが、ネットワーク作りは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてからは詳しい話を聞いて、本人の安心を確保するために自宅で馴染みの物を居室に置いたり使用して頂いたりして、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で気軽に相談できる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内老健施設の支援相談員が窓口になり対応している。又、支援相談員と同行して家庭を訪問し、本人や家族と面談し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え、話し合いながら築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や困ったことがあれば、一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける雰囲気を作っている。隣のレーブ式番館や老健施設におられる親や兄弟、友人に面会に行ったり来てもらったりしている。また、宅配便等の贈り物が届いた時は本人にお礼の電話を掛けてもらっている。	特徴的な取組みとして、家族等から入居者宛に何か贈り物が届いたら、送り主に電話をしたり、プレゼントを抱えた写真を送ったりしている。職員はどうかやって、繋がりを確保しようと工夫している。また、同一法人の施設やホームに、親子や兄弟で関わっているということで、職員はお互い面会等できるように、気持ちを確認しながら、関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事での余興参加、ホーム内での共同作業などを通じて交流を深めたり、お互いに声を掛け合ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族、病院と連絡を取り、安心して頂けるようにしている。希望のある方には戻って頂けるよう窓口である法人内の老健施設の支援相談員と連絡を取り合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に応じ、生活して頂けるようお願い・リハビリを実施している。困難な場合は表情を汲み取り、話を聞いたり一緒に散歩に出掛けたりしている。	家族から今までの生活歴の聞き取りを行っている。更に日頃の行動や様子から何をしたいのかを職員が把握し、偏ったケアをしないよう職員間で共有し支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴を考慮して活躍場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回のレーブ会議・申し送りで職員全体が把握しており、個々に出来るところにその力を発揮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がそれぞれ1～2名の入居者を担当し、日々の課程について責任を持って介護計画に盛り込み、月一回のレーブ会議で全職員で確認し合っている。また、モニタリングを実施し全職員で評価している。	ケアマネジャーの他に計画担当者を決めている。職員全員が日常生活の記録も作成把握できる体制を整え、モニタリングや次の担当者会議に活かし共有した体制で計画書の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・申し送りノートに記載し見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やドライブを必要に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生員・警察の方にも参加して頂き、長崎市琴海行政センター又は、地域包括センターの職員の同席のもとで周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の回診や定期受診の介助をし、家族には文書にて受診状況を説明している。又、距離の離れた医療機関には家族同伴で受診をお願いしている。その際必要な書類を持って行って頂いている。	入居時のかかりつけ医の他に月2回の往診がある。利用者も自分で病状を伝えるなど親しみのある関係が保たれている。他の病院受診も職員の付き添いがあり病状に合わせた医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日三回バイタルチェックを行い、異常がある時は、日浦クリニックへ連絡・相談し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口になり、そうした場合に備え連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日浦グループ内の病院、老健施設で対応できるようになっている。	法人の基準に基づいて支援が行われている。看取りは行わないが、24時間体制で医師の指示や受診が受けられ、職員も安心ができ、共に連携した支援体制が整えられている。	同意書や重篤な状態時の具体的マニュアルが整っていなかった。実際支援が行われているので同意書など作成し、より具体的に支援体制が整えられるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生は、協力病院の日浦クリニックへ連絡して指示を受けたり、同法人の老健施設の看護師に連絡相談できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。また、その他の災害に備えてマニュアルに基づいて避難経路を確保している。	同法人内や隣接するグループホームと共有して定期的に避難訓練が行われている。日頃から他のグループホームや地域との協力体制が整えており災害時に備えている。	食料などの備蓄が整っていなかった。隣接する法人やグループホームの支援を想定せず独自の体制が整えられるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に係る研修等で職員の技術の向上に努めている。居室に入る時は合図して声掛けを行うと共に、個々の物を触るときは了解を得るようにしている。	法人内の研修でも個人情報の取り扱いや人権の尊重等あり職員も参加している。職員が一人ひとり応じたやさしい声かけをして、さりげないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと傾聴する場面を作り、思いや希望を伝えて頂き、個人に合わせた対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を重視し無理強いする事なく入浴・外出・買い物・作業等一人一人に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂き。髪をカットしたり、髭を剃るのを手伝っている。また、家族の方が面会の際化粧品を持ってきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が献立を作り、食材が届くようになっている。可能な限り、入居者と職員が準備や後片付けを一緒に行っている。	入居者ができる野菜の下準備の手伝いをしている。季節の野菜を取り入れたり、食べたいものを日頃から聞いている。職員も入居者と共に食事を取り共に楽しむ時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が、一日のカロリー計算をした献立をしている。自分で水分摂取可能な人には、ペットボトルにお白湯やお茶を入れて渡している。介助が必要な人には職員が随時水分補給をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きをして頂いたり週二回、薬剤を利用して入れ歯を洗浄している。自分で出来ない人には職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターン、習慣を活かしてトイレ誘導を行っている。その人に応じて尿器やポータブルトイレを使用してもらっている、	入居者の排泄状態を把握し記録している。日中や夜間帯で支援体制を工夫しており、一人ひとりが快適に自立した排泄が行えるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操と廊下での歩行訓練や水分補給を徹底し、主治医の診断のうえ便秘薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に応じて入浴回数を調節したり、菖蒲湯や柚子湯で季節感を感じてもらったり、入浴剤の使用で香りや保温・保湿効果も楽しみの一つにしている。歌を歌ったり、お話を楽しむ等コミュニケーションを取り入れている。	毎日入浴ができる体制を整えている。菖蒲湯や季節に合わせ入浴剤を使用している。好みのシャンプーやリンス等も利用できて、一人ひとりが楽しめる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に室温計を設置し、温度の調整や寝具の手入れを行い、安心して休息したり眠れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を入居者の個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は職員が服薬介助にてきちんと服薬出来ているのかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ人・食材の切り込みが出来る人、食器を洗える人等一人ひとりの力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人内で行われる行事に参加したり、買い物・散歩・ドライブに出掛けている。また、家族に協力してもらって外出届けを提出したのち、本人の希望地に家族同伴で出掛けられる支援をしている。	法人内や家族と共に行事に参加したり、日頃から通院や買い物、職員の用事に共に出かけたり、近隣を散策したりしている。気軽に外出できる体制が整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同伴のもと、多少の現金をホームにて預かっており、週一回の移動パン屋さんから好きなパンを購入したり、必要に応じて買い物に出かけている。また、毎月の生活状況記録に掲載し、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機の子機を利用し、いつでも利用して頂いたりしている。必要に応じて手がみの代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、明るい空間を作っている。廊下やホールの壁には、共同作品や写真等を飾って楽しんで見てもらえるようにしている。	窓からの景色を眺め季節感を楽しめる。自然な明かりを取り入れる工夫がされ、ゆっくり皆でくつろげるソファ等もある。それぞれがリビングにいても自分の場所があり、職員もその空間を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った場所で過ごして頂けるよう食卓・円卓・ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していた物を置いて頂き、家族の宿泊の希望があれば布団や食事の提供をしている。	馴染みの家具や家族の写真、遺影やご位牌など並べ以前の生活と変わりなく過ごせるようにしている。部屋にも季節の花を飾ったり、一人ひとりが心地よく過ごせるよう支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーにしている。また、ベットより転落のある人にはPバーを設置している。		